

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700540		
法人名	有限会社 そうせい舎		
事業所名	グループホームあったか宝来館		
所在地	稚内市宝来2丁目2番19号		
自己評価作成日	平成26年8月23日	評価結果市町村受理日	平成26年9月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0176700540-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成26年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔で/ゆったりと楽しく/いつも寄り添って 宝来館の理念です
 笑顔には、明るさと穏やかさをこめ ゆったりと楽しくに、自由なありのままの暮らしを
 寄り添う心には、生活の主がご利用者であることを私たち職員が深く理解し、敬意を
 もって接するところをこめています。
 たとえどんな状態になっても、変わらない支援を続けて行きます。宝来館でよかったです
 と利用者さん、ご家族に思ってもらえるよう職員みんな日々研鑽しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<継続したケアサービスの実践>
 職員の離職率は低く、朝礼時にケアサービスの情報を共有し、意思疎通の時間を取
 りながら、声かけや気づきを話し合いながら継続したケアサービスの実践に努めてい
 る。また、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいや研修の機会を確
 保など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。
<事業所の力を活かした地域貢献>
 市担当者や包括支援センター、地域の民生委員と協力しながら、地域の困難事例へ
 の対応を事業所の持つ力を活かしながら地域貢献している。また、町内会主催の津
 波避難訓練への協力や草取り、花壇作り、奉仕活動等の町内会行事にも参加し、地
 域との連携に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念とスタッフ個々の介護理念を検証し全員が共有しうる理念を創出すべく話し合いを続けている	事業所独自の理念を作り上げ、個々の介護理念を検証し、よりよい介護理念を創出すべく話し合いが行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会による草取りや花壇作りは恒例化しておりその様子など風便り号外として回覧板で町内にまわし喜ばれている	火災避難訓練に地域の人達が参加したり、町内会主催の津波避難訓練参加、幼稚園児の慰問や花壇作り等の町内会ボランティアの受け入れなどで地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方から介助の仕方など相談をうけることもありアドバイスや用具の貸し出しを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度も指摘項目でしたがいざ改まったの会議開催がなかなかできずにいる。日常的に委員の方たちとお話しはしている	運営推進会議では、日常生活の様子や利用状況など具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。今後は、定期的に行えるように委員と協力体制づくりを話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢課、包括支援センターなど関係機関へは毎月の広報紙を配布している。また市や包括の研修会に参加している	地域ケア会議や定例の研修会参加、困難事例への対応など協力関係を築くよう努めている。市や包括支援センターに事業所の広報誌を配布し、事業所の取り組み等を情報提供している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分がされて嫌だと思ふケアはしない事を基本に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠についても、みんなで出かけてホームが無人になる場合や夜間帯に施錠しているがそれ以外の時間玄関戸は開放している	朝礼時でのミーティングや日々の業務を通じて全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待禁止は無論のこと心理的虐待が無いよう言葉づかいや利用者さんとの接し方について話し合いを持っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方がおり支援員と連携をとってケアにあたっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最近では消費税アップにともなう利用料変更についてご家族に説明しご理解、納得していただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家庭訪問時にご意見、要望をお話しただけよう管理者、職員ともに努めている	家族等の来訪時に意見や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見を運営に反映している。また、職員自筆のお手紙で健康状態や日常生活の様子など情報提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングに出席し、職員の意見や提案を聞く機会としている	職員の離職率は低く、継続したケアサービスを実施している。また、定例のミーティングやモニタリングで職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており、就業規則の見直しや有給休暇消化に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個々のケアの力量を把握し、見合う研修に派遣している。研修費用の援助も行っており安心して研修が受けられる環境を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会に積極的に参加を促している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望があればその実現に向けて努めるがなにより初期段階では、環境が変わることによる本人の抱える不安感の払しょくにつとめ、早く馴染まれるよう図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごと、要望等お聞きするだけでなく当ホームのケア指針をお話し、解決に向けて一緒に取り組んでいけるようお願いしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とのお話のなかから優先すべき支援を見極め対応するように努めている。グループホームの性質上、他サービス利用に色々制約がある事もお伝えしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者さんと一つの家庭のように家事仕事をしている。生活ノウハウについて利用者さんから教わることも多い		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方よりの来訪時には宿泊、食事など気兼ねなく利用者さんと過ごして頂けるよう対応している。毎月のお便りで、ご本人の様子などお伝えしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、馴染みの人に合いに行ったり、場所に行ったり出来るよう努めている。又、本人が不安定な時、馴染みの場所へ出かけ気分転換を図る事もある	地元のお祭り見物や農園での苺や豆の収穫、近隣住民や町内会の人々、家族や友人・知人等に敬老会参加を呼び掛けて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームの少人数の定員のなかで、利用者さんの性格や相性が合わない場合もあり、職員が意識的に孤立を防ぎ、共に暮らす仲間としての関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了はこれまでご本人がお亡くなりになったためが全てです。ご家族は何年たっても出会ったときは懐かしくご挨拶してくださいます			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日その日で思いや意向が変わっている事も多く、会話や仕草、体調などで本人の思いの把握に努めている。	一人ひとりのその日の変化する思いや意向、健康状態を考慮しながら本人本位に意向の把握を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族等からお聞きしている。普段の生活のなかで、本人との会話の中から色々知ることが出来るよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、動向ノート等を活用し現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月行い、大きな変化があった場合介護計画を見直し、現状に即した計画であるようにしている	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、毎月のモニタリングで職員の意見を反映し、現状に即した介護計画となっている。また、状態変化時には都度、介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は介護計画と連動している。管理日誌をより個人の動向が伝わるように改正している。その日のリーダーを中心に情報共有に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も把握し、必要ならば家族支援を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼保園の慰問をうけたり、町内の奉仕活動に一人ひとりが出来る範囲で参加している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続するようにしている。状態が悪化し、かかりつけ医での治療困難になった時はかかりつけ医、家族、職員、本人との話し合いで転院している	通院への支援や訪問診療で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常駐していないが、法人内の看護職員に昼夜問わず連絡がとれ指示を受けられる体制は取れている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、毎日病室を見舞い症状変化等を把握できるようつとめている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ホームでの看取りを希望されている利用者さんがいて、ご家族の意向確認とともに訪問診療の医師、看護師と連携をとりターミナルケアに取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	今後、看取りの実践に備えて統一したケアを実践できるように指針原案をつくり、ミーティングで細部にわたり確認作業をしていく計画なので、その実践に期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生、異物除去法の研修を受けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回実施している。地域の地震、津波避難訓練では地域の方とともに訓練に参加している	年2回の火災避難訓練には、地域の人々が参加したり、町内会主催の津波避難訓練への参加などで地域との協力体制を築いている。また、スプリンクラーが設置されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに敬意をもって接し、とくに言葉かけや言葉づかいについて接遇研修を開き誇りや尊厳を損ねない対応が出来るようつとめている	接遇研修会開催で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がそれはダメ、こうしてネなどの禁止、指示的発言をすることなく、本人が自己決定できるよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここでの暮らしの主体は利用者さんであることを職員は理解しており、職員の都合や思惑でのケアはしていない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフは整容が心身にもたらす良い影響をされていて、個々に合わせた支援をしています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食や節約料理づくり、食事場所を変えてみたりと食事が楽しめるよう工夫している。普段もみそ汁の具材選びや盛り付け片付けなど利用者さんと職員が一緒に行っている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。また、レストランでの外食やお祭り見物で喫食を楽しむ機会を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事表で献立、摂取量、水分量を把握でき一日を通じて必要量を確保できるよう努めている。個々に合わせさみやとろみづけなどもおこなっている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし本人の力に応じた口腔ケアをしている。食前の口腔マッサージも必要な利用者さんにおこなっている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で個々の排泄パターンは把握できているがそれにこだわり過ぎず、その日の体調や仕草からトイレ誘導をしている	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握し、適時便秘薬を服薬していただいている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めていない。個々の力に合わせてシャワー浴や介助者を2名にするなどしている	個々の健康状態や職員の気づきで柔軟な対応をしている。また、入浴時間は決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況で昼寝をしたり、起きていて活動したり個々が自分の体調にあわせ暮らしている。夜間、眠れずにいる利用者さんへは夜勤者が暫く話し相手になり安眠への支援をしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は薬剤師から詳しく説明をうけている。減薬の方向でいるが、その場合の症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、調理、裁縫等、生活歴を活かした役割があるが、本人の負担にならない様、配慮している。法人の催し物、ホームのイベント等楽しめるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日など、ご家族となじみの場所めぐりをしたり外食をしたりしている。外出支援としてホームでは色々企画している。重度化に伴い手軽に散歩は難しくなっている	農園での野菜の収穫や地元のお祭り見物、レストランでの外食や買い物などで戸外へ出かけられるよう支援している。また、サマーフェスティバルを開催して、地域の人達との交流や幼稚園児の慰問で楽しみ事への支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の利用者さんが手元にお金をおいていない。所持していても、しまい場所を忘れてしまう事が多いが、職員と一緒に探すことで対応している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書くぐらいで、日常的に手紙のやり取りはしていない。電話も職員が相手呼び出してから、お話されている。ダイヤル式でないと言苦手の様			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には利用者さんと季節にちなんだものをつくりディスプレイしている。換気、湿度に気がつかっている	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間では季節ごとの飾り付けや生活感を採り入れて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所にはソファをおいてあるぐらいだが、利用者さん同士でそれぞれの居場所を決めて過ごしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染の物をお持ちいただいている。居室の模様替えでは利用者さんの指示のもと職員がお手伝いしている	居室には、本人の希望を採り入れた模様替えを行ったり、使い慣れた家具等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物も古くなり、脱衣場もなく、トイレも洗面台も足りないけれど、お互いに譲り合ったり、お喋りしながら待っていたり毎日の事です。職員の見守りがなにより安全環境です			

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	職員の中に、ターミナルケアについての実際や緊急時の対応のしかたが良くわからないと言った声がある	宝来館のターミナルケア指針をつくり職員が統一したケアにあたれるようになる	指針原案をつくり、ミーティングで細部にわたり確認作業をしていく	2ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。